



福島県耶麻郡西会津町 奥川地区中町集落

中町集落の教科書



良いことも
そうでないことも
ちゃんと伝えたい



中町集落の教科書とは

「中町集落の教科書」は、初めて集落を訪れた人や、移住を考えている人、集落に興味がある人など、中町集落に関わる人に知っておいてほしい地域の情報をぎゅっと詰め込んだ冊子です。集落のルールや、この地域ならではの風習、暮らしの注意こと、人々の暮らしぶりなど。この教科書を参考に、中町集落への理解を一步深めながら、この地域の暮らしや滞在を楽しんでください。



磐越自動車道・西会津IC付近から見渡す西会津町。向こうに見えるのは飯豊連峰

立地

中町集落がある西会津町は、新潟県と福島県の県境にあり、「会津の西の玄関口」とも言われています。新潟と会津を結ぶ「越後街道」が通り、江戸時代には越後街道の宿場町として栄え、賑わっていたとのこと。今も、その歴史薫る町並みが残っています。



西会津町公式 HP



もくじ

- P 3 …… 西会津町の概要
- P 4 …… 中町集落の立地
- P 5 …… 中町集落の主要スポット・暮らしのライフライン
- P 6 …… 数字でみる中町集落
- P 7 …… 中町集落を語る8つのキーワード
- P 8 …… 集落の歴史ばなし
- P 10 …… 多様な生き物と共存する集落
- P 12 …… 集落行事
- P 13 …… 伝統行事
- P 14 …… 農業
- P 15 …… 中町集落の年間スケジュール
- P 16 …… 家の手入れ
- P 17 …… 家のつくり
- P 18 …… 受け継がれる暮らしの知恵
- P 19 …… 集落の味
- P 20 …… 方言・ならではの服装
- P 21 …… コミュニティ
- P 22 …… おばあちゃんの声
- P 28 …… 中町集落・奥川地区から生まれたプロジェクト
- P 32 …… 中町集落の四季
- P 36 …… 移住を希望する方へ・移住体験・住まい
- P 38 …… はたらく・子育て
- P 39 …… 移住者の声
- P 40 …… 暮らしのSOS
- P 41 …… 取り決め事項
- P 42 …… 委員/団体について
- P 43 …… 自治会について
- P 44 …… 区長さんの声
- P 45 …… 中町集落からのお願い
- P 46 …… ご協力いただいた皆さん
- P 47 …… 連絡先MEMO

※本誌に掲載されている情報は2024年3月15日現在のものです。発行後に変更となる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

集落のルールについて

集落のルールも記載しているところには、強いルールやゆるいルールなどその強弱の目安となるアイコンを付しています。参考してみてください。



強いルール



ゆるいルール



慣例や風習



消えつつあるルール

アクセス

各種アクセス

電車・バスでお越しの方

東京駅	東北新幹線 1時間20分	郡山駅	JR 磐越西線 1時間20分	会津若松駅	JR 磐越西線 50分	西会津町(野沢駅)
仙台駅	東北新幹線 40分	郡山駅	同上	同上	同上	同上
新宿駅	高速バス 4時間30分	新津駅	JR 磐越西線 2時間	同上	同上	同上
新潟駅	JR 越後線 20分	同上	同上	同上	同上	同上

お車でお越しの方

東京	東北自動車道 3時間	郡山JCT	磐越自動車道 30分	会津若松	磐越自動車道 20分	西会津IC
仙台	東北自動車道 1時間30分	同上	同上	同上	同上	同上
新潟IC	磐越自動車道 1時間	同上	同上	同上	同上	同上

飛行機でお越しの方

札幌(新千歳)	福島空港	タクシー バス 40分	郡山駅	JR 磐越西線 2時間10分	西会津町(野沢駅)
大阪(伊丹)	同上	同上	同上	同上	同上
新潟空港	磐越自動車道 1時間20分	同上	同上	同上	同上

※西会津町HPより引用

町内の移動手段

町内の移動は、自家用車が好ましいです。また雪国のため、冬期は積雪や路面の凍結があり、四輪駆動の自動車がおすすです。自家用車がない方は、町営バスが利用できます。デマンドバス「こゆりちゃん号」は、予約により運行するバスで、町内全域を運行エリアとしています。電話または専用アプリから予約できます。詳しくは町ホームページをご確認ください。



デマンドバス利用料

区分	利用者登録した町内者で前日までに予約した人	(1) 利用者登録をしていない町内者 (2) 当日予約の人	町外者
大人(中学生以上69歳以下)	200円	300円	300円
子ども(小学生)	100円	150円	150円
70歳以上	100円	150円	150円
手回り品(登山リュック等)	100円	150円	150円

※身体障がい者手帳交付者、福島県療育手帳交付者、精神障がい者保健福祉手帳交付者、手帳交付者の介護者、就学前の乳幼児は利用料が免除となります。なお、手帳をお持ちの方は、乗車の際、運転手に提示してください。
※町民バス回数券は、会津バス野沢営業所、バス車内、役場出納室、公民館、新郷連絡所、奥川支所、徳沢出張所、西会津診療所、群岡診療所、道の駅よりっせ、ロータスインで販売しています。

■ 中町集落の主要スポット



① 奥川みらい交流館

廃校になった旧奥川小学校を利活用して運用している町の公的施設。西会津町役場奥川支所として機能しているほか、研修室や調理実習室などがあり、町の様々な催しで活用されています。奥川地区には病院がありませんが、毎週火曜日には出張診療所として、奥川みらい交流館内で医師の診察を受けることができます（内科のみ）。

② 集落支援拠点施設「結」

高齢化率の高い奥川地区の集落支援を担う中心拠点。集落支援担当の地域おこし協力隊が滞在・活動し、町外から訪れた関係者の宿泊施設としても機能しています。

③ 喜多方警察署 奥川駐在所

警察官の駐在所であり、警察官が居住している場所です。集落の人からは親しみを込めて「駐在さん」と呼ばれており、集落の住人としての関わりもあります。奥川地区はとても治安がよく、事件や事故はめったにありませんが、万が一の事態が発生した場合にも安心です。

④ 西会津町消防団中町班

奥川地区内で発生した火事の初期消火に対応できる設備類が格納されています。

⑤ 中町集会所

催しや集会などで利用できる集落の公民館です。Wi-Fi が完備されており、オンライン会議などでインターネットを使う場面でもスムーズに作業が進みます。中町集落に住む人の利用は無料です。

⑥ 農家民宿のぼら

中町出身の元気な農家さんが営む民宿。昔ながらの「曲がり屋」で、まるで日本昔ばなしの世界に訪れたかのような懐かしい気持ちを感じられます。

⑦ 味処さかや

名物女将とそこそこの主人が営む昔ながらの食堂。町内外のファンが多く、シンプルながらも味わい深いラーメンが人気。かつては「酒屋」を営んでいたそうです。

⑧ JA 会津よつば奥川支店

金融機関があるほか、お菓子やお茶などを買える。

⑨ 奥川郵便局

預貯金や振込、年金の受給、荷物の配送など、奥川地区の暮らしを支える拠点。

■ 暮らしのライフライン

● 病院

奥川地区には病院がありません。西会津町の中心地にある「西会津診療所」が中町集落から最も近い診療所で、集落から車で 20 分ほどかかります。また、毎週火曜日には出張診療所として「奥川みらい交流館」内で医師の診察を受けることができます（内科のみ）。

救急車は野沢地区にある西会津消防署から出動します。ドクターヘリが来る場合は県内から、「奥川みらい交流館」のグラウンドに来ます。

● 買い物

中町集落のお隣にある「真ヶ沢集落」内に、「福島屋」という商店があります。食材や日用品など、最低限暮らしに必要なものはここで購入できる上に、仕出しも行っているため会食などの際にも頼れる地域の台所です。また、西会津町の中心部にはスーパーマーケットやコンビニ、ドラッグストア、ホームセンター、クリーニング店、衣料品店などがあり、生活用品のほとんどが町内で手に入ります。インターネット通販を利用すれば、翌日に配達される品物もあります。山奥の集落だからといって不便を感じることはほとんどありません。身体が不自由な方や高齢の方は、「福島屋」が運営する移動販売車（火・水・土曜）の利用もおすすめです。

● ガソリンスタンド

中町集落のお隣にある「真ヶ沢集落」内に、「伊勢屋商店奥川給油所」があります。商店も営んでいるので、コーヒーを買って休憩がてら給油する、なんてこともできます。おしゃべり好きな気さくなスタッフさんもいます。

● インターネット環境・携帯電話の電波

自宅で Wi-Fi やインターネット、テレビを利用する場合は「西会津町ケーブルテレビ」の加入が必須です。中町集落内は、携帯電話の電波が途切れることはほとんどありませんが、町内の一部の集落やエリア、山奥では電波が入らない場所があるためご注意ください。

■ 中町集落の立地

中町集落は、西会津町の北部にある「奥川地区」内にあります。奥川地区の北側には 1,000m 級の山々が連なり、春夏秋冬それぞれに美しい風景を見せてくれる自然豊かな地域です。「奥川」という川が実際にあり、イワナやヤマメなどの渓流釣りの本場で、シーズンには多くの釣り客が訪れます。そんな奥川地区の中心地に位置するのが「中町集落」です。町の中心部から伸びる縦貫道と、隣接する新潟県側と喜多方市を結ぶ国道が通っているため、山奥でありながらも比較的アクセスしやすい環境です。



■数字でみる中町集落

中町集落の人口や気象状況など、集落の特徴を表現しているデータを集めました。

世帯数
25戸

大きさの規模としては、ぐるっと歩いてまわれるほどコンパクトな集落。ですが、周辺には1軒、2軒しかない集落もあるので、奥川地区の中では都会なのかもしれません。

高齢化率
56%

西会津町内においても、高い数値。確にお年寄りが多い地域ですが、若者に負けない気力と活力があり、「集落の人から元気をもらった」という人も多数。

最高齢
98歳

お年寄りが元気な地域であり、長寿の里ともいえる中町集落。その元気の秘密は、よく食べ、よく笑い、よく動くことなんだとか。

人口
38人

住んでいる人はみんな顔見知りで、顔や名前はもちろん、その人の家族や親戚のこともお互いに知っている関係性。集落まるごと家族のよう。

男女比
男性 **20人** 女性 **18人**

男女の比率は大差なく、ほぼ同じ人数。

最高気温
34.7℃

夏場は蒸し暑いですが、お盆を過ぎるとぐっと涼しくなる傾向。昼間は暑くても朝晩は冷えるため、エアコンを設置していない人もいます。

最低気温
-10.7℃

「大寒」を迎える1月末～2月頃が、最も冷え込む時期。特に昔ながらの民家は木造で断熱性能が高くないため、暖房器具などの寒さ対策が必須です。

平均積雪量
約140cm

近年は雪の量が減りつつありますが、どっさり降る年は、人の背丈以上の雪の壁ができることも。人によっては、雪が降る方が体感温度が暖かく感じられることもあります。

※世帯数、人口、高齢化率、最高齢は令和5年6月時点のデータ
※最高・最低気温は令和5年度西会津町オープンデータより引用

■中町集落を語る8つのキーワード

中町集落ってどんな場所？集落の雰囲気や魅力を一言で表現してみました。

1. 奥川地区の中心地

町役場の奥川支所や駐在所をはじめ、町の機能的な施設が揃う中町集落。その賑わいから「ここは銀座通りだ」という地元の人も。

3. 農業の名人

集落の多くの人が、米づくりや野菜づくりをしています。その味が本当においしい！家庭菜園や農業に興味がある人は、教えてもらうこともできそうです。

5. お茶飲み好き

道端で会ったり挨拶したりすると、「茶でも飲んでげ〜」と、すぐにお茶飲みに誘ってくれる文化があります。中町集落では、それは日常のこと。気を遣わずに、ぜひ参加してみてください。

7. 気さくで人が好き

中町集落全体が、とてもアットホームな雰囲気。町外から来た人や、初めてこの地域を訪れた人に対しても、「どこから来たんだ？」と話しかけてくれたりと、とても親しみやすい人が多いです。

2. 毎日が絶景

春は新緑、夏は真っ青な空と山々、秋は黄金色の稲、冬は幻想的な白の世界。四季それぞれに美しい風景を見せてくれます。

4. ものしり博士

かつては、山や田んぼが遊び場だったということもあり、特にお年寄りの方たちは自然についているんなことを知っています。ぜひお話を聞いてみてください。

6. 古くて新しい

昔ながらの日本の田舎の風景が残っていても、県内外から絶えず多くの人を訪れて活性化に取り組んでいたり、新しい風を感じる地域です。

8. ツーリング客に人気のスポット

中町集落を横切る国道459号は、バイクツーリング客に人気のルート。田畑や山に囲まれた気持ちの良い風景は、多くの人々の心をひきつけています。



こ かせんげき 五ヶ村堰

奥川地区の集落の多くは、奥川兩岸の段丘面に点在しています。このあたりの地域では地下水を得ることは容易ではなく、飲料用の井戸さえ持てない状況で、生活用水もかんがい用水も小さな沢の水や堤に頼らざるを得ませんでした。しかし、これでは干ばつの年などにはなす術もなく、豊富で安定した水を得ることが村人の宿願だったのです。こうして、中町集落に隣接する小屋集落付近を取水口とする堰の建設計画が立ち上がり、これが「五ヶ村堰」の誕生です。取水口は標高およそ 250m、そこから下流にある宮野・真ヶ沢・中町集落を経て、新町村中を流れ、再び奥川に放出されます。この堰は、延宝 7 年 (1679 年) に書かれた「堰改め帳」にも記載があり、現在においても最も大きい規模を誇る堰です。



五ヶ村堰

奥川七観音

明治 19 年 (1886 年) に奥川地区にある七つの観音堂が選定されたもので、御詠歌は宮城三平によって詠まれています。中町集落内には、そのうちの一つの中町観音堂があります。近年は、この七観音をめぐって御朱印を集めるイベント「七観音ウォーク」が開催されており、町内外から訪れる多くの参加者で賑わいます。



中町集落内にある中町観音堂。
地域のおかあさん方によって守られ続けています



奥川地区にある観音堂をめぐり歩く「七観音ウォーク」。地域の歴史をたずねながら、豊かな自然にもふれられます

参考文献：『西会津町歴史文化基本構想』

奥川地区は、かつては「村」だった！

中町集落は、西会津町の北部に位置する「奥川地区」にある集落です。そもそも西会津町は、昭和 29 年 (1954 年) に 1 町 9 カ村が合併して誕生した町。その一つの村に「奥川村」があり、それが現在の奥川地区です。つまり奥川地区は、かつては独立した村でした。

木材・木炭を運んだトロッコ道

大正時代のはじめに、当時の奥川村の近代化を加速させた出来事がありました。一つは、水力発電所の建設。もう一つが、トロッコ道の建設です。それらは、奥川地区にとって「明るい未来が見えた」と思われる出来事だったそうです。トロッコ道は大正 3 年、岩越鉄道全通により開設された徳沢駅から奥川に沿って、飯豊山麓の弥平四郎集落東の角間沢までおよそ 20km を結ぶものでした。これは、林区署という国の機関 (のちの営林署) が建設したもののちに、何本かの枝線が建設され、その中には昭和 37 年に廃止となる最後まで活用された軌道もあります。

奥川地区の背にそびえる「鏡山」や、それに連なる山々はブナの木が豊富です。この当時はアメリカで玩具としての需要が高く、多くは輸出用として伐り出されていました。奥川村では、その利便性からトロッコ輸送が民間利用としても活用され、それまで自給自足が主であった村の生活を大きく変えることになりましたが、昭和 30 年頃にトラック輸送に移り変わり役割を終えました。玉石を積み上げた路盤跡は各所に残っていますが、黒部峡谷のトロッコとほぼ同じ距離の軌道は崩落が進み、今では通行困難で人々の記憶から忘れられようとしています。



奥川軌道跡

集落の歴史ばなし

中町集落がある奥川地区の歴史や文化的資源にまつわるストーリーをご紹介します。集落やこの町の歴史を知ると地域への理解が深まり、より親しみやすくなるかもしれません。

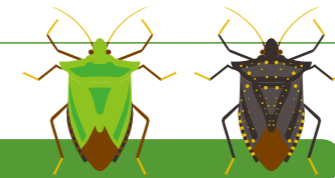
■多様な生き物と共存する集落

山々に囲まれ、自然環境が豊かな中町集落。ここは、多様な生き物のすみかでもあり、時には人間に危害を及ぼす動物と遭遇することもあります。このページでは、そうした生き物を紹介するとともに、それらの対応や対処方法についてもお伝えします。ここで暮らしている、鉄砲の空砲音などが時々聞こえることがありますが、これも害獣対策の一つであるということを知っておいてください。



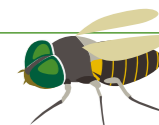
アブ

大きなハエとハチの間のような見た目をしています。真夏、川沿いによく出る虫です。車に寄ってくる傾向もあります。毒はありませんが、刺されると痛みと痒みを伴います。水で洗い流した後、保冷剤等で冷やし、抗ヒスタミン薬を塗ることで、痛みや痒みを抑えることができます。決して、患部を掻きむしることはしないようにしましょう。抗ヒスタミン成分は、市販の虫刺され薬にも含まれているので、効果が期待できます。もし、発熱を伴ったり痛みが数日経っても引かない場合は、病院で診察を受けるようにしましょう。



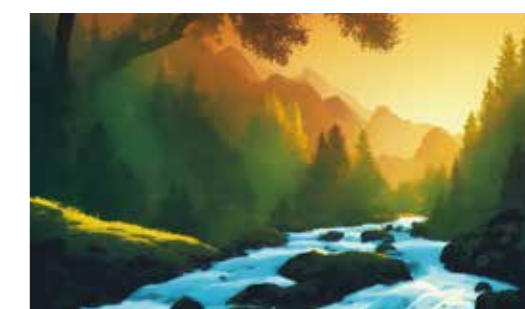
カメムシ

別名、ヘクサンボ。山が多い集落であるため、カメムシは日常的に遭遇しやすい虫です。殺虫剤を使いたくないという人は、ペットボトルを半分に切り、下半分に灯油や洗剤を入れて、その上に上半分を逆さまにしてはめると、カメムシ取りとして役立ちます。昔ながらの言い伝えでは、「カメムシが多く出る年の冬は雪が多い」と言われてきたそうです。



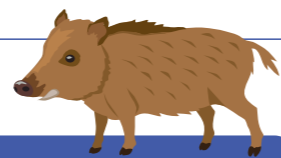
メジロアブ (イヨシロオビアブ)

見た目はハエそっくりで、目の周りに白い模様があるのが特徴的。夏場、川や水際の影にいて、草刈りの時に遭遇しやすい虫です。服の隙間からも入ってくるため、ハチ除けの服などを着用作業するほか、夕方は水辺の作業をしない方がいいという地元の人の声もあります。排気ガスを好み、車を運転した後はエンジンを止めて5～10分待ってから車外に出た方が良いとのこと。



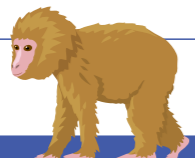
ツキノワグマ

会津地域ではツキノワグマが山間部の森林に恒常的に生息していて、山に餌がない時期や子育ての時期、集落内に柿などの食べ物が多い時期は集落の近くに出てくることがあります。人を怖がらずに集落に居ついてしまった場合など「危険」と判断されたクマは捕獲を行います。まずは家で出た生ゴミやクマが好きな匂いを出す肥料などを適切に処理することにより、民家の近くに寄ってこないようにすることが大切です。クマも人を怖がるので、多くの場合、人を見たら逃げていきます。山菜やキノコ採りで山林に入るときは、クマ鈴などの音を出すものを身に付けて、見通しの悪い藪を避けクマに発見されやすくすることで人身事故を防ぎましょう。



イノシシ

平成24年頃から稲やジャガイモなどの被害が出ている、現在は西会津町全域に生息しています。電気柵を設置して被害を防いでいますが、田んぼや畑だけではなく、農作物が無い民家や水路の周りなども掘り起こす場合があります。集落で水路の掃除などを行う場合は積極的に参加しましょう。福島県ではイノシシの被害が増加しており、自衛のために狩猟免許を取得する人が増えています。狩猟に興味がある方は、町役場に相談してください。なお、電気柵を触ると感電するので注意してください。



ニホンザル

奥川地域にはいくつかのニホンザルの群れが生息しています。群れで行動するため、一度に大きな農作物被害を受けてしまいます。家庭菜園を始めたいと考えている人は、こういった野生動物からの被害に対して電気柵などの対策を同時に行う必要があります。サルは日中に活動するため、昼間に花火で追い払うことで群れごと移動させて被害を防ぐことができます。西会津町では、サルに発信機を取り付けることで位置を把握し、ケーブルテレビを通じてサルの群れの出没予報を知らせています。これらを活用して追い払うことで、サルが寄り付かない集落を目指しています。



さいかみ 〇歳の神



慣例や風習 ゆるいルール

しめ飾りや神棚のお供物、カレンダー、お札などをお焚き上げて歳神様を天にお送りし、一年の五穀豊穡や無病息災を願う会津地方の伝統行事です。各家庭から藁を持ち寄り、心棒となる雑木を2本立てて藁を円錐形に結びつけたものに火を投じます。年男、年女がいればその人に火をつけてもらうそうです。毎年、小正月にあたる1月15日の18時から、集落内の農道にて開催されます。スルメや餅を持参して竹に刺して焼いて食べると無病息災が叶ったり、習字の書き損じを燃やすと字がうまくなったりするいわれがあります。集落内で11月、12月に不幸があれば、取りやめになることもあります。



慣例や風習 消えつつあるルール

こやすかのん 〇子安観音

中町集落内には子安観音という観音様のお堂があり、そのお世話集落の女性の団体「講中」が担っています。観音様へのお供物や、お堂まわりの掃除などを行い、開催時期などは講中の方々が決めているそうです。興味がある人は、集落のおかあさん方に聞いてみましょう。



慣例や風習 消えつつあるルール

えんめいじ ぞうそん 〇延命地藏尊

毎年3月24日と8月24日に「延命地藏尊」のお世話をする女性（講中）が集まって、ご馳走をつくりお念仏を唱えたりする行事があります。お念仏は「御詠歌」といって、会津三十三観音の御詠歌を唱えます。譜面があるわけでもなく、代々、地域の人たちが歌い継いでいます。こうしてお念仏を唱え、ご馳走をお供えし、子どもたちの健やかな成長を願い、集落を守ってくださっているお地藏様に感謝する。中町集落で古くから行われている大切な行事です。ちなみに昔は、このお地藏さんを家に連れて帰り、お地藏さんと一緒にご馳走をいただいていた歴史もあるそうです。



■ 伝統行事

昔から集落で受け継がれてきた祭礼や催しがいくつかあります。今はその担い手や参加者が減ってきていることから、こうした伝統文化が消えつつあるという実情も。興味を持つだけでも集落の人は喜んでくれるので、ぜひ話を聞いてみてください。



慣例や風習 ゆるいルール

いず 〇伊豆神社の祭礼

伊豆神社は、中町集落にあるこの地域の鎮守さま。神社の宮びらきをする4月28日と、宮じまいをする10月29日に、神主さんと呼んで祭礼を行っています。宮びらきでは五穀豊穡を願い、宮じまいでは豊作の感謝を神様に伝えます。この祭礼の前には、境内や社殿の掃除を行っています。神社は山を登ったところにあるため、体力のある若手の力が必要。参加は義務ではありませんが、ぜひ積極的に参加してもらえると嬉しいです。



自分たちの暮らしは、自分たちで守り、整える。

〇義務人足



強いルール 慣例や風習

「人足」とは、自治区ごとに行う共同作業のこと。中町集落をはじめ、稲作が中心の山間部の集落では、数kmにもわたる水路の整備や水利設備の管理、道路の草刈りや道路整備など、自分たちが暮らす環境を自分たちの手で守り、整えることが暮らしの基本となっています。正直、体力的にも簡単な作業とは言えない取組ですが、いかにして集落が人々の努力と手によって守られてきたのかを知ることができ、集落の人たちと深くつながる接点にもなります。

義務人足その1 水路の落ち葉上げ

中町集落にある田畑で使う水は、山の中に整備された溜め池から水路を引いて集落まで水を流しています。その道のりは5kmほど。この水路に落ち葉や泥が溜まってしまうと、集落まで水を流すことができず、田畑の水不足に悩むきっかけに。それらを防ぐために、定期的に水路の掃除（落ち葉や泥上げ）を行います。開催日は、4月・7月・11月末の年3回。具体的な日時は、事前に区長さんから連絡があります。

義務人足その2 3kmにわたる農道の整備

作業内容としては水路掃除とほぼ同じです。開催時期も同じく、4月・7月・11月末の年3回。どちらの人足に行くかは集落内で役割分担をしています。近年は人口減少のため、周辺の集落の人の力を借りたり、町内外の有志を募ったりと、外部の協力も大きな支えとなっています。

■ 集落行事
厳しくも豊かな自然環境の中で生きていくために、また、人口減少や高齢化が進む中でも集落の営みが継続できるように、中町集落では様々な取組や行事を集落をあげて行っています。ぜひ積極的に参加して、地域の皆さんとの交流を楽しんでください。

水路の落ち葉上げの様子



☆移住者は2～3年の参加猶予あり

義務人足は、集落の住人にとって参加義務のある取組ですが、集落の暮らしに慣れない移住者は、2～3年の参加猶予が設けられます。可能であれば参加が求められますが、まだ暮らしに慣れない場合や参加が難しければ、中町集落の区長さんに相談して参加を免除してもらいましょう。

☆義務人足に参加できないときは

様々な事情で義務人足に参加できない場合は、「代夫賃（だいふちん）」を集落の会計担当に支払いましょう。一日がかりの人足の場合は5,000円、半日の場合は2,500円です。この費用は中町集落の維持・運営費などに充てられます。

〇回り人足



ゆるいルール

3人1組の当番制で行う人足。消火栓や防火水槽の除雪、集会所の雪囲いなど、細々とした作業を担当します。具体的な仕事内容や時期については区長さんから指示がありますので、担当する3人で話し合って役割分担をしてください。参加できない場合の「代夫賃」は発生しません。

中町集落の年間スケジュール



強いルール ゆるいルール 慣例や風習

時期	行事	ルールの濃さ	内容
1月1日	元旦の挨拶	ゆるい	10時から中町集会所に集まり、新年の挨拶をします。年の始めにけじめをつけて、まんべんなくご近所挨拶をするという意味も。カジュアルな場ではなく、正装で集まります。参加は強制ではありませんが、参加できる人は積極的に顔を出すようにしましょう。
1月初旬	集落の区長を選出	強い	2年に1回、区長を選出するための選挙が行われます。投票権は1世帯1票。会計などの役員は、区長が任命します。
1月15日	歳の神	ゆるい	歳神様を天にお送りする伝統行事。詳しくは13ページで紹介しています。
3月24日	地藏講	ゆるい	講中と呼ばれる集落の女性たちが、お地藏さまのお世話をします。詳しくは13ページで紹介しています。
4月	区費の支払い	強い	月末までに区費を支払います。年払いまたは月払いもOK。区費は毎月15日までに組長に現金を持って行きましょう（区費は1世帯あたり1,400円/月。移住者（移住後3年間）は700円/月）。
4月下旬	義務人足・種まき	強い	冬のあいだに溜まった落ち葉や泥などの水路の掃除をする人足、集落の住民は義務参加で行っています。詳しくは12ページで紹介しています。また、稲作をしている場合は、この時期に種まきをします。
4月28日	宮びらき	ゆるい	集落内にある伊豆神社の宮びらき（春の祭礼）を行います。詳しくは13ページで紹介しています。
5月中旬	田植え	ゆるい	ゴールデンウィークが開けて、初夏の空気が感じられるようになるこの時期は田植えのシーズンです。農家さんは忙しくしている時期なので、頼みごとなどは急ぎの場合を除き、田植えが終わってからにしましょう。
6月1日～3日	さなぶり（早苗振）	ゆるい	田植えが終わって、「この3日間は農作業を休みにしましょう」という農家さんの休日。
7月	義務人足	強い	1年のうち2回目の義務人足は、草刈りが主な作業。
8月7日	お墓掃除	ゆるい	この日の朝の時間帯に、お盆前のお墓掃除を行います。実際には、7日と厳格に決められているわけではなく人によってバラバラですが、昔はこの日と決まっていたそうです。
8月14日	盆踊り	ゆるい	奥川地区全体の盆踊りが、奥川みらい交流館にて行われます。夏の風情が感じられる素敵なひとときが過ごせますよ。参加は自由。
8月23日	地藏講	ゆるい	3月に行う地藏講の夏バージョン。
8月14日～20日	盆休み	ゆるい	この時期は、農家さんにとっての休日。今は厳格に休みと決められているわけではありませんが、昔はこの期間は農作業を休んでも良いとされていたそうです。
9月20日頃～	稲刈り	ゆるい	毎年、およそこのあたりの時期から稲刈りが始まります。黄金色に染まった田んぼの風景は美しく、昔ながらの田舎らしい情緒に包まれます。
10月29日	宮じまい	ゆるい	4月に行った伊豆神社の祭礼の秋バージョン。
11月下旬	義務人足	強い	1年最後の義務人足を行います。また、具体的な日にちは決まっていますが集落内にある観音様のお世話や掃除をするのもこの時期です。
	観音講・冬じたく	ゆるい	11月中頃から少しずつ雪の降る日が増えてきますので、建物の雪囲いなどの冬じたくをする家庭が増えてきます。
12月28日	正月準備	ゆるい	昔はこの日に、玄関飾りや鏡餅をつくとといった正月準備を行っていたそうです。現在は、この日と定められているわけではありません。

農業

農業はこの町の基幹産業であり、中町集落でも稲作を中心として様々な作物が栽培されています。「ミネラル野菜」といって、町が推進する土壌改良の方針をもとに自身の畑で野菜を栽培し、道の駅などで販売している人もいます。中町集落は水が豊かで、ほど良い日照量と昼夜の寒暖差があることから、米づくりには最適な場所。稲作にしても、畑作にしても、集落には農業の名人が多くいるので、家庭菜園などにトライしてみたい人は、アドバイスをもらってみましょう。

☆農業に興味がある方は…



強いルール

農業を始めるには、まず農地の確保が必要ですが、農地は宅地などと比べて自由に売買や貸借ができません。つまりは、農業従事者でないと農地を確保することが難しいのです。そのため農業を始めたい方は、まず農業従事者のもとで就農することが一番の近道です。農地の売買・貸借については、農業委員会の決まりがあるため確認してください。

また、コンバインやトラクターなどの農機については集落内での貸し出しはなく、個人で用意する必要があります。初期費用が高額になるため、はじめは集落の方に手伝ってもらいながら一緒に農作業するのが良いでしょう。

支援制度もありますので、詳しくは町役場（農林振興課）へ相談してみてください。



家のつくり

まるで日本昔ばなしの世界に訪れたかのような、昔ながらの民家が建ち並ぶ中町集落。建て替えなどで、新しい姿に生まれ変わった民家もありますが、中には築130年ほどのいわゆる「古民家」もあります。特に「曲がり屋」と呼ばれる様式の家は、その名の通りし字に家が建てられており、昔は玄関の土間に「べこ」（会津の方言で牛という意味）が暮らしていました。農家民宿「のぼら」を営む岩橋義平さんの家は、まさに曲がり屋。ぜひお茶飲みがてら、遊びに寄ってみてください。

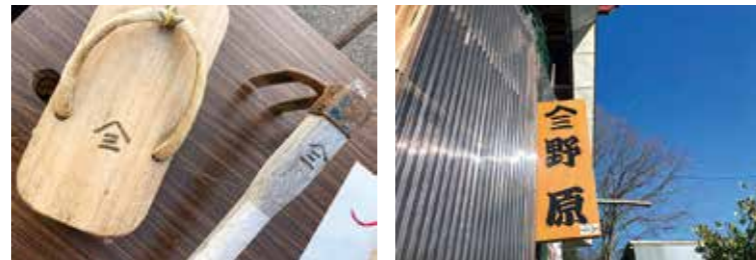


☆昔ながらの家の豆知識

しるし：マジックペンなどが無い時代は、農機具や鍬に焼印をして「しるし」をつけていた

屋号：家の建物のなまえ

家紋：一族が受け継いでいるしるし



岩橋義平さんの私物。下駄や鍬の焼印のしるしは「やまさん」と読み、現代でいうサインのようなもの。看板にある「野原」は「屋号」と呼ばれ、このあたりは同じ苗字の人が多いことから、今でも苗字でなく屋号で呼び合っています。

～屋号マップを片手に集落を散策～

集落と関わりがある福島大学の学生の発案により作成された、中町集落の屋号マップ。町外から訪れる人にとっては、なかなか馴染みのない「屋号」ですが、屋号はその家の歴史や職業などの意味が込められており、この地域の歩みを知る大きな手がかりになるものです。ぜひ、このマップを片手に集落内を散歩してみてくださいね。



家の手入れ



中町集落には集合住宅やアパートなどがなく、昔ながらの民家が点在しています。こうした民家やその周りの田畑は、集落の風景そのもの。きれいな景観を保てるように、集落の皆さんはこまめな手入れを心がけています。新しく中町集落に移り住む人や、中長期的に滞在する人も、こうした地元の人たちの心がけを尊重し、建物や土地を大切に扱ってください。

○草刈り

春～秋にかけて、家の周りや所有する敷地周りの草刈りはこまめに行いましょう。草が生い茂っていると、害虫や動物が棲みついてしまい、近隣の迷惑になったり、空き地や荒地のように見えてしまったりします。中町集落の美しい風景をつくる一員であるという心意気を持ちましょう。また、草刈りには手刈りでなく機械の購入をおすすめします。地域のホームセンターで購入できますが、機種や使用方法など分からない時は、集落の人に聞けば快く教えてくれますよ。



○除雪

大人の背丈ほど雪が降り積もる豪雪地帯。冬が近づくと、雪で家が壊れないように窓や扉などの開口部に「雪囲い」をして備えます。雪が降ると、除雪が日課となりますが、豪雪地帯と言えど町の除雪委員が除雪車で道路の雪かきをしてくれるため、各家庭での除雪は玄関や駐車場周りだけでOK。さらに、大通りは自動的に雪を溶かしてくれる「消雪パイプ」が設備され、比較的住みやすい環境が整っています。



☆除雪や冬の暮らしの注意点

- 除雪の際は、道路に雪を捨てずに田んぼや空き地などに捨てましょう。
- 屋根から落ちる雪と、地面に積もっている雪との間には必ず隙間をつくっておくこと。その隙間が埋まってしまうと、軒先が雪の重みに引っ張られて家が壊れてしまいます。
- 軒先の下は歩かず、車も停めないこと。雪が落ちてケガをしたり、車が濡れる可能性があります。
- 冬場は道路に車を停めないこと。除雪車の邪魔になります。
- 除雪車をむやみに追い越さないこと。除雪車が脇に寄れば、追い越しても良いサイン。
- 特に朝晩の冷え込む時間帯は、道が凍り、滑る危険が増します。車の場合は時速 30km 以下のゆっくり運転で、歩く場合は、ペンギン歩きを心がけて事故やケガを防ぎましょう。
- 家を守る「雪囲い」は、多くの家庭ではホームセンターなどで販売している波板で自作しています。自作が難しい場合は、大工さんに依頼しましょう。

☆西会津町のジョセササイズ

慣れない人にとっては特に、除雪は重労働。しかし自分たちの暮らしを守るためにも、避けて通れない大切な日課です。近年では、逆転の発想で除雪をエクササイズだと捉えて楽しもうというユニークな取組「ジョセササイズ」が西会津で生まれ、web サイトも公開されています。除雪のポイントも詳しく掲載されていますよ。ぜひあなたも、レッツ・ジョセササイズ！



日本ジョセササイズ協会
<https://jjxa.mystrikingly.com/>

■ 集落の味

中町集落は、野菜づくりの名人が多い地域でもあり、料理上手が多いグルメな集落でもあります。特に、会津地方は昔から保存食・発酵食の文化が根づいており、お茶請けなどのお漬物も絶品！このページでは、そうした料理上手な集落のおかあさんたちの特製レシピを紹介します。

矢部たみさんの「大根の酢漬け」

パリパリ食感の大根に、柑橘系のさっぱりした風味が相性ばっちり。食べる手が止まらないほど、いくらでも食べられます。

〈材料／量はそれぞれ適量〉 〈作り方〉

- ・大根
 - ・塩
 - ・砂糖
 - ・酢
 - ・酒
 - ・みかん
1. 大根を適当な大きさに切り、塩で揉み込み、水が浮いてきたら水を捨てる。
 2. 砂糖、酢、みかん汁、みかんの皮を刻んだものと大根を和えて、少しの酒を入れて3日ほど漬ける。
 3. 完成！



矢部たみさんの「芋床」

芋床とは、会津地方の郷土料理の一つで、じゃがいもを主原料とした漬物床のことです。大根や白菜など、野菜と芋床をまぜて漬け込むだけで、お手軽に漬け物ができ上がります。

〈材料／量はそれぞれ適量〉

- ・じゃがいも 5kg
- ・塩 2kg
- ・砂糖 3kg

〈作り方〉

1. じゃがいもを蒸して潰し、砂糖と塩を混ぜる。
2. 1) にミキサーをかけてなめらかにする。
3. 芋床の完成！
4. 野菜と芋床を混ぜて重しをし、水が浮いてくると食べ頃です。

岩橋厚子さんの「ビール漬け」

漬物にビールを使うの!?とはじめは驚くも、その漬物を味わえばおいしさに納得。なんとも深みのある漬物が完成します。ごはんのお供や、お酒のアテにもおすすめです。

〈材料／量はそれぞれ適量〉 〈作り方〉

- ・大根 15kg
 - ・ビール (大根 5kg に対して 350ml 一本)
 - ・塩コップ 1 杯
 - ・酢コップ 1 杯
 - ・砂糖 700g
 - ・からし粉 1 袋
1. 大根の皮を向き、適当な大きさに切って材料を全て混ぜて漬け込む。
 2. 1 週間ほどすると浮水が出るので、上下逆さにして漬け直す。
 3. 味見して味がよく漬かっていたら完成！



■ 受け継がれる暮らしの知恵

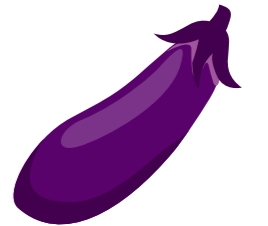


慣例や風習

今のようにインターネットがない時代、昔の人はいろんなことを自然から学び、暮らしや人生の教訓としてきました。このページでは、今では語り継がれることが少なくなってしまったという「集落の教え」を、いくつかご紹介します。

○「親の小言と、なすびの花は、千に一つの無駄もない」

なすびの花が咲くと必ず実がなるように、親の小言も子どもにとって一つも無駄がないという例え。70代の農家さんは、ご自身の祖父母からこの言葉を教わったそうです。



○「^{しゅっすい}植えて100日、出穂見て20日」

田植えをしてから100日後に穂が出て、穂が出てから20日が稲刈りの目安だという百姓の教え。



○^{みこ}見肥やし

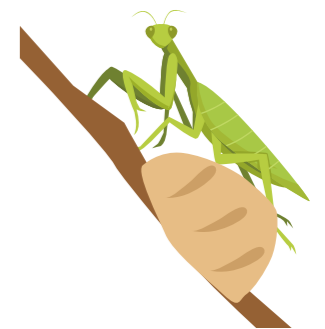
肥料を与えるだけでなく、作物を見て、成長具合や病気がないかをちゃんと見ることも肥やしになるという意味。

○^{こうようさん}高陽山に3回雪が積もると、里に雪が降りてくる

高陽山は、中町集落の背に望むシンボリックな山。この山に3回雪が積もると、集落にも雪が積もると言われています。そのため、高陽山に雪が積もったのを確認すると、集落の人は雪囲いをするそうです。

○カマキリの巣が地上から高いところにあると、大雪になる

カマキリは雪に埋もれないように卵を産みつけるとされており、その高さを見て、その年の雪の量の目安をはかるそうです。



○雪は天然の冷蔵庫

雪が降り積もり、寒さが本格化すると、もはや外気より冷蔵庫の方があたたかいということも。外の庭木のふもとに雪に大根や白菜を埋めておけば、天然の冷蔵庫として活用できます。雪の中に埋めずに外気にさらしたままにすると、凍ってしまうので注意。むしろ、凍らせたいものは外に置いておけばOK！



■ コミュニティ



慣例や風習

集落まるごと大家族のような、親しみやすさのある中町集落。人足などの行事ごとがある際には慰労会をしたり、希望者を募って年1回旅行へ出かけたりと、いろんな楽しみがあります。それに、集落の人たちはお茶飲み好き。挨拶のように「お茶飲んでがっせ」と気軽に誘ってくれます。時間がゆるす限り、気を遣わないで、ぜひお茶飲みに参加してみてくださいね。昔話など、いろんな話が聞けると思います。お茶飲みはカジュアルな憩いの時間なので、手土産などは不要ですが、たまに和菓子やお煎餅などを持っていくと喜ばれます。



お茶飲みは、集落の人の暮らしそのもの。人と人との強い結び付きを育む場にもなっています。



町主催のスマホ講座の様子。山奥の田舎でありながらも、集落の人たちは専門員に教わりながら、スマホやタブレットを使いこなしています。



■ 方言



慣例や風習

会津地方や中町集落で話されている方言。若い世代の方は話すことがほとんど減ってしまったようですが、今でもお年寄りの方々は話されている場面が多いそうです。方言に親しめると、集落の人たちとの会話がより弾みそうですね。

おらほ	私の地域
かんまがす	かきまぜる
く	食べる
くいっちい	食べたい
くつき	あげたい
け	食べなさい
しなこい	しなる
んだから	だから
すだらがす	乾かす、水滴をとる

ぞうさねえ	かんたん
ちゃった	来た
とんでこい	急いでこい
はかいがね	はかどらない
はつつがる	ねばってつかかる
ぶつつがれ	座って
ほんじゃくる	ほじくる
みぢつけ	雪を踏んで道をつくる

■ ならではの服装



慣例や風習

自然に囲まれた暮らしならではの知恵の一つに、服装が挙げられます。夏は暑く、冬は寒い環境の中でも過ごしやすい工夫が集落の人たちから感じられます。手軽に取り入れられるものなので、ぜひ皆さんも“中町ファッション”を楽しんでみてくださいね。

○菅笠

「ちよっぺ笠」と呼ぶ人も。日よけ・雨よけ・雪よけにもなる万能アイテムです。両手があくため作業しやすく、マイ菅笠を持つ農家さんが多数います。



○手ぬぐい (二筋手ぬぐい)

集落のおかあさん方がよくまとっている手ぬぐい。布を縫い合わせて手づくりしたもので、顔まわりをぐるっと守れるため、日よけや虫よけとして活躍しています。



○かんじき

雪国ぐらしのマストアイテム。これを履くと、雪の上でも足が雪に埋もれることなく歩くことができます。昔はこの写真のように手づくりされていたましたが、今はホームセンターでも購入できます(膝下丈の長靴も用意しておくことをおすすめします)。



○さるっぱがま (さっぱがま、さるはかま)

山や野良仕事しやすいように工夫されたズボン。かがみやすいように、お尻まわりはゆとりのあるつくり、膝下は草や土などが入らないように脚にフィットした形になっています。これも、集落のおかあさんが手づくりしたものです。



「じい」は、奥川地区の銀座通り



矢部たみさん

「中町集落は、奥川地区の銀座通りみたいなもんだ〜！」と、笑いながらお話しくださった矢部さん。長らく地域の小学校・中学校の学校給食の仕事をしていたり、今も野菜づくりや漬物づくりをしていたり、料理上手な一面を持っています。そんな矢部さんの暮らしぶりや、中町集落の好きなところなどお話を聞かせていただきました。

みんなから「時計屋さん」と呼ばれています

私は西会津町の「中ノ沢」という集落の出身で、高校を卒業してから米と野菜の農業をしていたんです。中町には23歳のときに、家族で引っ越してきました。かつては家で時計屋をやっていたこともあり、今でも近所さんからは「時計屋さん」と呼ばれています。この家の「屋号」というものですね。25歳からは学校給食の仕事をしていて、旧奥川小学校・中学校（現在の奥川みらい交流館）へ給食を運んでいました。それから39年間、調理師の免許を取得したりしながら、調理の仕事が続けました。



家の壁には屋号看板が掲げられています

畑が生きがい。いつも畑にいます

平成10年に西会津町でスタートした「ミネラル野菜」の栽培。これは、ミネラルのバランスが良い土壌で育てた野菜を「ミネラル野菜」と呼んで、道の駅などで販売する取組なのですが、

私もこの20年ほど栽培農家として野菜づくりを手がけてきました。くきたち菜（菜の花）、にら、じゃがいも、かぼちゃ、玉ねぎ、なす、ピーマン、オクラ、しそ、大根、唐辛子、さつまい



矢部さんの畑。広い畑を一人で作業している

もなどなど。収穫した野菜は、自分で袋詰めをしています。ぜひ、道の駅で野菜を見かけたら手に取ってみてくださいね。
私にとって、畑は生きがいですね。1日のうち大半は畑にいて、頭痛がしても畑に行けば治るんです（笑）。野菜をもう一回（収穫して）、そのできたものを眺めていると嬉しくなります。もう年を重ねて、畑を止めようかと思うときもありますが、なんだかんだ止められない。今87歳ですが、「元気の秘訣は？」と聞かれたら、やっぱり畑仕事をしていることですね。働くのが好きだから、こうやって元気でいられるんだと思いますよ。畑をやってみたいという人は、知りたいことや分からないことがあれば声をかけてください。ちょっとは力になれるかなと思います。

「お茶飲み」では、野菜や漬物の話で盛り上がっています

中町集落は、平地が多くて移動しやすいからいいですね。用事があるときは、いつも電動車いすに乗って移動していますが、農協も駐在所も、役場の支所も近いから、中町集落は便利です。ここは銀座通りだっと思えます（笑）。毎日の楽しみは、畑と「お茶飲み」ですね。お茶飲みのときは、漬物や野菜の話をしたりしています。漬物は、お茶飲みのときとかにお茶請けとして出すことが多い、常に何かを漬けていますね。ちょうど今の冬の時期は、芋床を仕込んだり、大根を酢漬けにしたり。味見

してみたいという人は、ぜひお茶飲みに遊びに来てくださいね。レシピも教えますよ。



87歳の矢部さんは、話し方もハキハキしていてとても元気。その秘訣は、毎日の畑仕事なんだとか



「お茶飲み」では大根の酢漬けをお茶請けに、話が弾みます



自宅の廊下には、漬物床がたくさん

矢部たみさんの芋床・大根の酢漬けのレシピは19ページで紹介しています

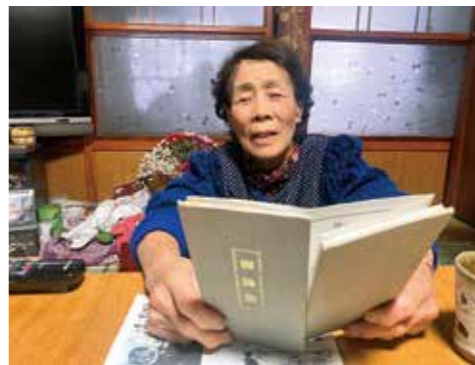
「元気の秘訣は、よく動くこと！」

60年間、この集落で欠かさず守ってきたもの

私が中町集落に来たのは22歳の頃。結婚して、夫が中町集落にこの家を建てたんです。集落のはし(上)にあるから、屋号は「大上」(おわかみ)。ここで暮らして、もう60年ほどになりました。その間に欠かすことなくやってきたのは、お地蔵様や観音様のお世話。例えば、お地蔵様のお世話をするとときは、地域のおかあさんたちがお地蔵様のところに集まって、会津三十三観音の御詠歌を歌ったり、ご馳走を用意して食べたりするんです。昔は、お地蔵様を背負って、茶の間にお招きしたりしてたんですよ。今はもうやらなくなっちゃったけど、やる人も高齢で少なくなっているからね。もし中町集落に来た人で、興味があればぜひ一緒に御詠歌を歌ったり、ご飯を食べたりできれば嬉しいなと思います。



お地蔵様を家に連れて帰っていた頃の様子



御詠歌のお手本を披露してくれた石井さん



石井アツ子さん

結婚を機に、町内にある別の集落から中町集落に移り住んだ石井さん。いつも明るい笑顔で話をしてくれる気さくなおかあさんです。この地域に住んで60年間、大切にしてきたことや暮らしぶりなどを教えていただきました。

何でも積極的にやる〜くま〜よしなこと

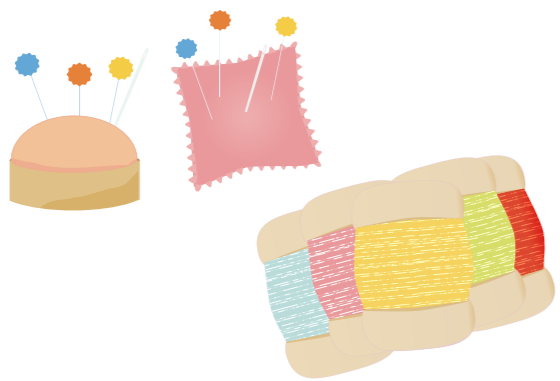
食べるものも着るものも、多くは手づくりしています。畑で野菜を育てたり、襦袢(じゆばん)を縫ったり。若い頃に和裁や洋裁も習ったから、着物でも何でもつくれますよ。畑仕事で使う「やぬぐい」は「ま」や手ぬぐいも手づくりです。畑

仕事にしろ、身の回りのことにしろ、何でも自分で積極的にやるのが大事ですね。夏は朝5時から畑に出て、冬は自分で除雪もする。人生なるようにしかならない。くま〜よしな〜い〜そんな風に思いながら、毎日を楽しんでいます。

若い人がたくさん来てくれるのが嬉しい

中町集落は人も減ってきているし、何にしても協力が大切。この集落の区長様がいろんな取組をやってくれているし、若い人がたくさん来てくれて嬉しいです。人足の手伝いもしてくれて、本当にありがたいですね。中町集落で何かやってくれて

いる姿を見ると、そのお礼に何かあったり差し入れしたいなと思うんです。ぜひ、中町集落に来たときには、気軽に「お茶飲み」に寄ってくだいね。



畑仕事の時に、日よけや虫よけとして使う手ぬぐい。布を縫い合わせてつくったそうです



「雪道気をつけてよ〜！」と見送りしてくれる石井さん

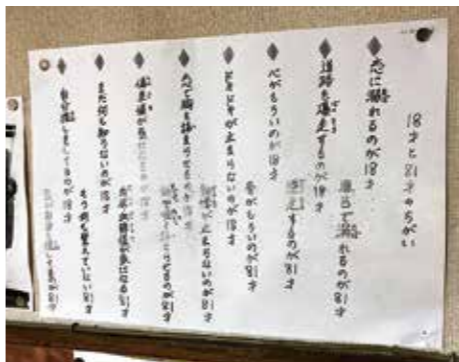
「昔も、今も、人が行き交う地域」

中学を卒業してからは、仕事で神奈川へ

私は奥川地区出身で、奥川小学校・奥川中学校に通っていました。今は廃校になって「奥川みらい交流館」と「高陽の里」になっている場所です。昔の遊びといえば、かくれんぼやおはじき、縄跳び。神社で七夕の短冊をつくった思い出もあります。中学校を卒業してからは、神奈川県川崎市にある半導体をつくる工場で働き始めました。当時は高度経済成長期で、東京に働きに出るといふ憧れがあった時代でもあったんです。奥川中学校の卒業生が集団で東京に出て、それぞれが就職先を見つけて働いていました。当時は「金のたまご」なんて呼ばれてもいましたね。私もしばらくは関東にいたけれど、7年後に家族の事情で帰ってきました。帰ってきて、ホッとしましたね。中町集落にきたのは、24歳の頃だったかな。結婚がきっかけで移り住みました。



いろいろお話をしてくれた結城さん



結城さんのお宅に貼ってあったユニークな言葉



結城キミ子さん

中町集落にある小・中学校を卒業し、神奈川へ勤めに出た後、また中町に戻り暮らしている結城さん。かつては、この集落にあった民間企業で働いていたり、簡易旅館を営んでいたりと、いろんな経歴を持たれています。結城さんの人生の歩みを聞きつつ、中町集落の昔と今について教えていただきました。

かつては、簡易旅館を営んでいた「栄屋」

かつては、中町集落にもいくつかの民間企業があったんですよ。電気部品をつくる会社や、靴づくり、縫製の会社とかね。私もそうした会社で働いたり、郵便局に勤めたり、今は定食屋さんを営んでいる「さかや」さんが酒店をやっていた頃は、瓶洗いのお手伝いをしたりしていました。私が住んでいるこの家の屋号は

「栄屋」と言います。まだ奥川小学校・中学校があった頃は、先生方の寄宿舎として使われていました。昔は簡易旅館を営んでいたんです。「農村集団電話」といって、集落の5組で一つの電話を使っていたんですが、その工事をする人も来ていたり、いろいろな人が出入りする場所でした。今は時代が変わって、人が少なくなっちゃったけれど、人足を手伝ってくれたり、集落を盛り上げてくれたりと、町外からいろんな人が来てくれて活気があります。中町集落の人も、人が来るのは慣れてるし、ウェルカムって感じですよ（笑）。



この家の屋号「栄屋」の看板が掲げられています。かつては簡易旅館を営んでいたそう



中町集落の魅力は？と聞かれると、私はここにとっぷり浸かっているから答えづらいけど…。でも、思いやりがある人ばかりですよ。「お茶飲み」はよくするし、春は山菜採りに行くんですが、それも隣の人に教えてもらいました。でもね、きのこがよく採れる場所は、みんな誰にも教えないんですよ（笑）。私もそう。自分だけのきのこ狩りのスポットがあるんです。今年の秋は、あかきのこ、さくらしめじ…。いろいろ収穫できました。こうして山で採れた食材は、自分で食べたり保存食にしたりしています。例えば、春に採れるわらびは、夏の間に塩漬けしておいて、加工できる人に頼んで缶詰にしたりしています。私は畑仕事をやっていないけれど、野菜をお裾分けいただくこともよくあって、それを漬物にしたりしますね。そういう暮らしをしているおかげか、風邪はひかないし、薬を飲むこともないし、体は丈夫なんです。思い悩まないし、くよくよもしない。私だけに限らず、この集落には元気な人が多いなと思います。



結城さんが山で採ったわらびを缶詰に加工したもの



お茶請けには、わらびの和え物を出していただきました

新しい助け合いの仕組み・関係性

「未来型「結」」

現代のように、農業の機械化が進んでいなかった頃のこと。中町集落のような農村地域では、農家同士がお互いに田植えや稲刈りを手伝い、助け合う文化が根付いていました。それを「結」と言います。その「結」では、報酬などの金銭的なやりとりは発生せず、「結でやんべー」とお互いに声をかけ合って、集落の暮らした大きな割合を占める農業を、人の手によって支えていたのです。しかし、集落の人口減少や高齢化が加速した今、集落の人たちの手だけでは、農業や昔から受け継いできた文化・風習も、守りつないでいくことが難しくなっています。そこで、かつての「結」を現代風にアレンジし、「未来型「結」」として、助け合いの仕組みや関係性を新しく紡ぎ直す動きが生まれています。

「未来型「結」」の発起人は、奥川地区に住む西会津町の地域おこし協力隊・長谷川幸志さん。きっかけは、ソーシャルプロデュースプロジェクトを仕掛ける実践型のコミュニティ「社会創発塾」に参加したことでした。そこで出会った塾長の鈴木寛さん（愛称：すずかん）と意気投合し、中町集落および奥川地区の人たちがつないできた集落の営みを、維持・発展させていく取組をスタートしました。すずかん先生が、東京大学教授・慶應義

塾大学特任教授として研究室やゼミを受け持っていることから、中町集落に大学生が集うようになったり。長谷川さんが「社会創発塾」で出会ったデザイン事務所の代表や、関係する学生も訪れるようになってきた。人が人を呼び、特に若い世代の人たちの行き交いが、中町集落で活発になっていきました。

そうして中町集落を訪れた人たちは、長谷川さんや中町区長の岩橋義平さんのサポートのもと、田植えや稲刈りを体験したり、人足に参加したり、その過程の中で集落の人たちと交流したりと、集落の営みにふれて関係性を深めています。町外・県外から訪れる人たちにとっては、なかなか日常で体験することのない農作業を実践しながら、農山村の暮らしや文化に親しむきっかけとなり、中町集落の人にとっては、新しい視点や価値観を持つ人たちとの出会いや交流が育まれ、地域の内外を越境する関係性「未来型「結」」がたちになりつつあります。



“未来型「結」”についてお話を聞かせていただいた長谷川幸志さん



集落の田んぼで稲刈りをする様子



コンバインに乗り、岩橋さんに操作を教してもらいながら収穫を体験



この『集落の教科書』の表紙に掲載されている写真も、まさに“未来型「結」”を表現しています。町内の人と、県外から訪れた人が共に稲刈りをしたときの1枚

■ 中町集落・奥川地区から生まれたプロジェクト

集落の人口は減少しつつも、集落に関わる人が増えている中町集落。例えば、大学生がゼミの一環でフィールドワークを行ったり、芸術系の大学生が集落に滞在しながら作品制作をしたり、中町集落や奥川地区のお米を使って東京でおむすび屋を始める人がいたり。大学生・企業人・アーティスト・クリエイターなど多様な人が行き交い、この集落から新しい取組が次々に生まれています。ここでは、そうした数ある取組の中からピックアップしてご紹介します。

中町集落や奥川地区のお米を味わい、人と人、地域と地域の関係性を結ぶ「おむすび屋「結」」

「未来型「結」」の関わりの中で、中町集落を訪れた大学生が東京を拠点におむすび屋「結」を立ち上げました。その中心人物は、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の山口奈々さんと、柳田宙輝さん。東京・日本橋で開催された奥川地区産の新米試食会に参加し、お米を味わいながら、奥川地区を盛り上げようと議論する中町集落の人や、その場に集った大学生、



中町集落・奥川地区産の新米おむすび

社会人の勢いに心を動かされ、二人も東京から奥川地区・中町集落に足を運ぶようになりました。

集落では、田植えや稲刈り、人足を体験し、集落の人たちから野菜をもらうなど交流する場面もあったそう。その中で中町集落や奥川地区の人たちの温かさにつれ、気づけば何度も中町集落や奥川地区に足を運ぶようになっていきました。そうした集落での体験や出会いが、「自分たちも奥川地区を盛り上げていきたい」というモチベー



中町集落で稲刈りをする柳田宙輝さん

ションになったそうです。

そして実現したのが、おむすび屋「結」。集落で出会った農家さんのお米や、自分たちで収穫したお米のおむすびを、東京で提供するというものです。他大学の学生も仲間に加え、実店舗は持たずにポップアップショップという形態で2023年11月に活動をスタートしました。出店にあたり、山口さん・柳田さんの知人や、関係する起業家のコミュニティにおむすび屋「結」の構想を伝えて出店場所を提供してもらったり、自分たちが収穫したお米を東京に送ってもらったり、会津らしさを味わえるメニューを考えたりと、多様な人を巻き込み、工夫を重ねながら準備したそう。活動をスタートしてから2カ月間で5度出店し、毎回30食前後を提供しているといいます。「奥川地区への愛をどんどん発信しながら、奥川と東京を結び、ゆくゆくは世界と奥川を結ぶ架け橋になりたい」と意気込みを語る

山口さん・柳田さん。おむすび屋「結」を通じて、人と人、地域と地域の新しい関係性が、次々に結ばれようとしています。



おむすび屋「結」を出店したときの様子



山口奈々さん（左）

おむすび屋「結」の Instagram



おむすび屋「結」の LINE オープンチャット



おむすび屋「結」の活動や背景について知りたい方はこちら 公式 note



集落の土地・人とともに作品をつくる 芸術家の集い「やどりぎ案内」

東京にある美術大学・大学院に通う学生が中心となって活動している「やどりぎ案内」。中町集落をはじめとする奥川地区で、その「土地」と、そこで暮らす「人」とともに作品をつくることを目指し、東京と奥川地区を行き来しながら制作活動や展示などを行っています。「やどりぎ案内」の活動は大きく3つあり、一つ目は、新たな環境を必要としている芸術家と奥川地区をつなぐ機会を定期的につくること。二つ目は、奥川地区で作品を制作・発表すること。三つ目は、これらの活動の記録と報告、そして地域の人へのお礼の気持ちを込めてお便りを発行する



中町集落の民家に、ユリの花をモチーフにした絵が描かれています

こと。2021年から活動をスタートし、2022年8月には、初となるアートプロジェクト「もの語りの層」を実施。この地域で採取した草木を使って布に草木染めを行ったり、採取した枝を燻製して木炭にしたもので絵を描いたり。そうして完成した作品を集落内の東屋に展示し、訪れた人にも絵や言葉を描き加えてもらえるような工夫を取り入れたと言います。

2023年夏には、中町集落にある民家のガレージにウォールアートを描いたり、移動式屋台を自作して集落を練り歩いたり、各家庭に伝わる「焼きばんこ」を押す体験や、オリジナル焼きばんこをデザインするワークショップを開いたり、多岐にわたる活動を展開。東京から何度も足を運んで集落に滞在し、地域の人と関わりながら制作活動やイベントの準備を重ねていきました。今後も、年に一度は制作・発表の機会を持ち、奥川地区と芸術家のつながりをつくりたいとのこと。若い世代の芸術家が拓く地域の新しい可能性に、この先も期待が高まります。

地域の自慢と誇りを再認識し、つぎの地域のあり方を考える「奥川地域づくり協議会」

中町集落がある奥川地区は、西会津町内においても最も高齢者の割合が多く、子どもや若年層の減少が進んでいます。このままでは、この先数年のうち集落の営みが維持できなくなり、消滅する集落が出てくる可能性も大いにあります。そうした背景から、奥川地区では町外・県外から訪れる人たちが積極的に受け入れ、地域の活力を高めるような取組を次々に展開してきました。その中心拠点となっているのが中町集落。近年では、この中町集落を中心に渦巻いている盛り上がり、奥川地区全体の活性に広げようという地域住民のはたらきかけが勢いを増し、2023年2月に「奥川地域づくり協議会」が結成されました。

協議会は、奥川地区に住む町議会議員や地域おこし協力隊、区長をはじめ、地域のキーパーソンが主なメンバー。定期ミーティングを開いたり、団体の受入窓口になったり、イベントを主催したりと、つぎの奥川地区のあり方を考え、実践する動きが盛んに行われています。

「奥川地域づくり協議会」には、奥川地区に暮らす人をはじめ、そうでない人も活動を支援できる会員制度が用意されています。奥川在住の人も、離れている人も、この地域の未来づくりに参加できる機会です。興味がある方は、ぜひ「奥川地域づくり協議会」の公式noteをご覧ください。



自作した移動式屋台



町内で暮らす家族もワークショップに参加



集落をめぐり歩いて、その家庭に伝わる「焼きばんこ」を再現したり、オリジナルデザインをつくったりするワークショップ



正会員
(奥川自治区)
※議決権あり(自治区長)

年額200円 × 戸数

奥川地域にある20集落



正会員
(団体 or 個人)
※議決権あり

年額3,000円

奥川地域の自治区民の方(個人)
奥川地域の地域づくりに関心がある方
奥川地域の各種団体及び事業所など



サポート会員
※議決権なし

年額1,000円 / 口

本会の趣旨に賛同し、
その活動を支援する意思のある方

「奥川地域づくり協議会」公式note



「やどりぎ案内」の活動や背景について知りたい方はこちら
公式note





どこまでも青い夏空と、風になびく稲が気持ちを爽やかにしてくれます

夏

中町集落の四季

みずみずしく、透き通るような若葉が山々を彩り、中町集落を春に染め上げます
(写真/青津京介)



春

秋

冬

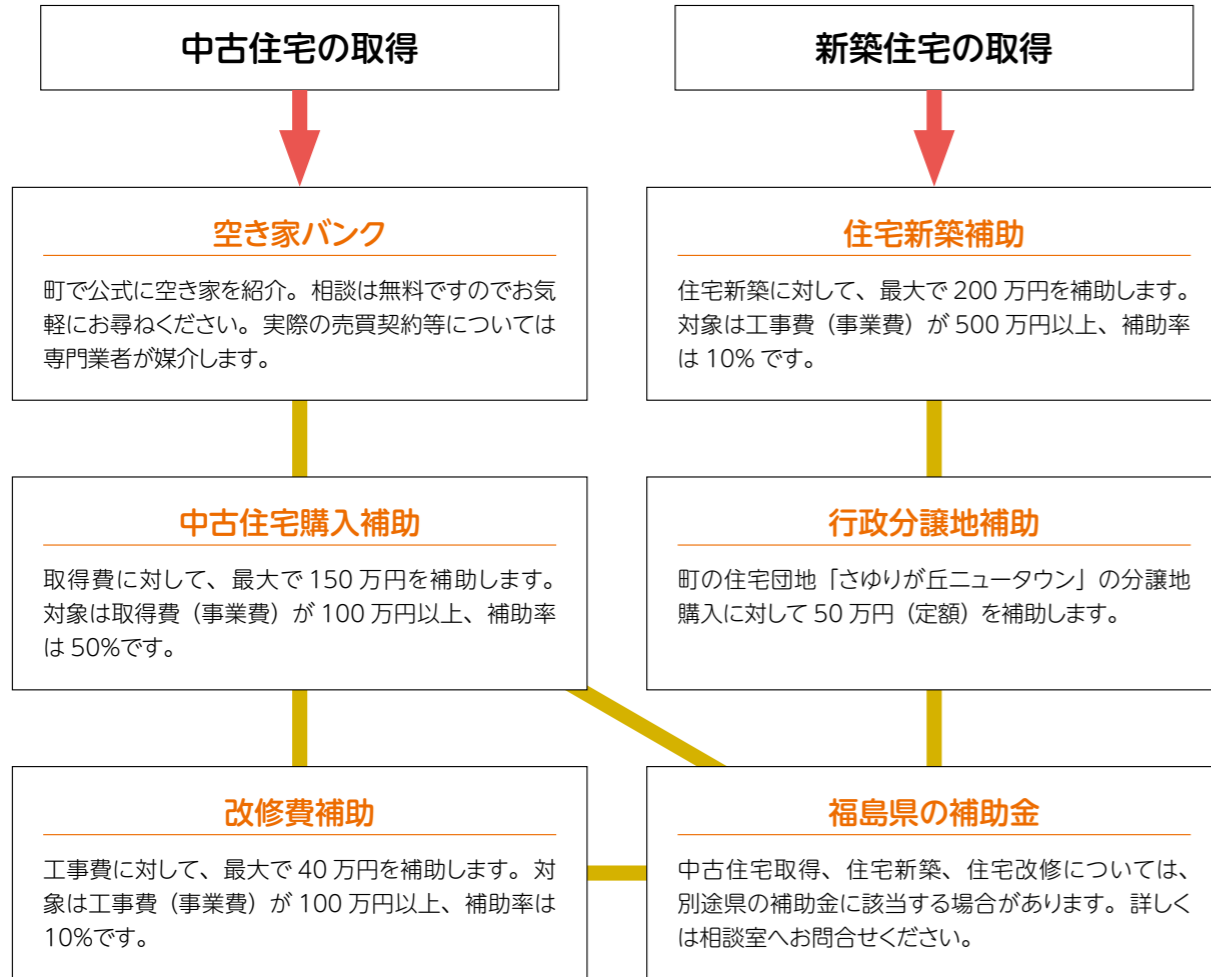
雪化粧をまとい、銀世界が広がる冬。時折見せる、澄みわたる空とのコントラストが見事（写真／青津京介）



稲刈りを終え、秋のノスタルジーに包まれる中町集落（写真／青津京介）

住まい

西会津町では、移住される方に対して、多様な住まいの支援を行なっています。賃貸住宅に関する相談はもちろん、中古住宅の取得や住宅の新築への補助金も充実しています。補助金や各種支援制度を利用するには、様々な要件があります。詳しくは「西会津のある暮らし相談室」までお問合せください。



東京圏在住の方限定

にしあいづ移住支援金
東京圏から移住された場合（その他各種要件有り）、単身者 60 万円、2 人以上世帯 100 万円（お子様 1 人当たり 100 万円加算有り）が受けられます。



※ 2023 年度の実績を掲載しています

移住を希望する方へ

中町集落や、西会津町に移住を考えている方は、区長さんもしくは町役場の窓口にご相談しましょう。「西会津のある暮らし相談室」が、西会津町役場商工観光課内に設置されており、移住相談や空き家物件の紹介、住宅の取得・改修の補助についての情報提供、子育て・仕事支援など、西会津の暮らしを多岐にわたってサポートしてくれます。



（西会津のある暮らし相談室）

事務室：西会津町役場商工観光課内
〒 969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢字下小屋上乙 3308
電話：0241-45-2213 FAX：0241-45-2241
MAIL: iju@town.nishiaizu.fukushima.jp 営業時間：平日 8 時 30 分～ 17 時 15 分

分室：にぎわい番所ぶらっと
〒 969-4406 福島県耶麻郡西会津町野沢字原町乙 2230
電話 0241-45-2071 MAIL: nishiaizu.iju@gmail.com
営業時間：平日 9 時～ 17 時



西会津町 移住ナビ
<https://iju-nishiaizu.com/>

移住体験

移住を希望されている方や、西会津町の暮らしを体験してみたい方、町民と交流してみたいという方は、町が提案する移住体験プログラムへの参加やお試し住宅「Otame」の利用が可能です。また、レンタカーを利用される方には、レンタカー代の補助もあります。

移住体験プログラム

先輩移住者との交流や農業体験などオーダーメイド型の体験プログラムをご提案します。町民が移住希望者や体験希望者をサポートする制度もあります。




お試し移住住宅 Otame

空き家を改修した和テイストのモダンな雰囲気の移住体験施設。移住を希望されている方がご利用いただけます。使用料金：2週間 10,000 円 / 1ヶ月 15,000 円




レンタカー代等補助

町に移住体験等をされる場合、レンタカー代等の一部を支援します（交通費、宿泊費については県の支援制度もあります）。



移住者の声

地域の皆さんのあたたかさにふれて。 「すなお」な姿勢を大切に

つむらや
円谷隆典さん・かお里さん

福島県須賀川市出身・2023年移住

隆典さん

私の仕事の都合で、妻を連れて中町集落に移住しました。引っ越してきたその日から、近所の人たちがすぐくフレンドリーに接してくれて、この集落の温かさを感じています。まだこの地域の冬を経験していないので、どれくらい不便に感じるかは未知ですが、気持ちとしてはさほど不安には思いません。分からないことがあれば地域の人たちが教えてくれるし、ここの生活の仕方も教えてくれる。自分が心を開きさえすれば、みんな移住してきた人に壁や距離をつくることはなく、親身になって暮らしをサポートしてくれます。移住当初は、何もかも分からないことだらけだと思いますが、遠慮なく地域の人に聞いてみてほしいです。勝手に自己解釈しないで、すなおに聞くこと。その姿勢があれば、この地域の暮らしに馴染めると思っています。



かお里さん

集落の皆さんが、私たちを受け入れてくださっているのをいろんな場面で感じています。例えば、この集落にはお茶飲み文化が根付いていて、「お茶飲んでがっせ」とよく誘ってもらえるんです。それは仲良くなってからではなく、移住してすぐの頃から誘っていただいていた。これまで主人の転勤でいろんな地域に暮らしてきましたが、こんなふうにすぐに親しみを持って接してくれるのは、中町集落が初めてです。家の庭を耕して、家庭菜園を始めた時も、近所の人たちが野菜の育て方を教えてくれたり、畑仕事をサポートしてくれた。漬物や芋床の作り方なども教えていただきました。引っ越して半年程度ですが、すっかりこの集落の暮らしに馴染めたように感じています。主人もコメントしているように、中町集落を訪れる人には「すなお」な気持ちを大切にしてほしいなと思います。それは、「無理しすぎない」ということでもあります。疲れてしまったり、寂しくなったりしたときは、「なんか最近疲れちゃったんだよね。実家に行けてなくて寂しくなっちゃった」と、すなおに伝える。そうしたら、地域の人たちも嫌な顔せず「しんどいのがよ〜」って、話を聞いてくれます。明るい自分だけを見せようとしなくていい。そんな懐の広さ、人の温かさが、この集落のいいところだなと感じています。

中町の暮らしを楽しみながら 町の鳥獣害専門職員として活動しています

荻原謙介さん

東京都出身・2017年移住

町の鳥獣害専門職員として、害獣の狩猟や捕獲、電柵設置の対応などを行っています。移住前は福島市に住んでいましたが、この仕事に就くために引っ越してきました。福島市でも今と同じような仕事をしていて、私の私物である猟銃を置いてもいい家であることが、家さがしの条件でした。そこで紹介いただいたのが、今住んでいる中町集落の民家です。中町集落の皆さんは、町外から訪れた人への間口はとても広いと思います。鉄砲を持っている自分でも受け入れてもらえたくらいですからね(笑)。近所を散歩していたら気軽に声をかけてくれますし、野菜をお裾分けしてくれたりもする。年末年始、帰省していたら家の除雪をやってくれたご近所さんもいて、皆さんのやさしさや温かさ感謝しています。引き続き、この仕事を続けるため、中町集落にお世話になる予定です。仕事の事情で、人足には参加できない場合もあるのですが、地域の催しや行事の手伝いをしたりと、集落の運営にも積極的に関わっていきたくいですね。



はたらく

農業をはじめ既存産業の担い手としてはもちろん、ものづくりや空き店舗などを活用した起業や継業など、自分らしい働き方を見つけるお手伝いをします。テレワークやマルチワークなど多様な働き方への環境整備も進めています。

起業

起業に向けた相談受付、創業塾の開催、空き店舗等を活用した起業への補助金(最大100万円)など、起業をサポートします。

マルチワーク

季節ごとに様々な仕事に従事できる仕組みです。ライフスタイルに合わせて、自分に合った仕事を探してみませんか?

無料職業紹介

町で運営する無料職業紹介所では、求人者と求職者の雇用関係の成立をあっせんします。

新規就農

新規就農にあたっては初期段階の経営安定に向けた町や県からの様々なサポートがあります。

地域おこし協力隊

様々な分野で地域おこし活動などを行いながら町への定住を図る取組です。これまで約40名の隊員を受け入れています。

テレワーク

町内全域に光ファイバーが敷設されており、コワーキングスペースもあります。

西会津町テレワークセンター
問合せ先: 西会津町商工観光課
電話: 0241-45-2213



子育て

中町集落および西会津町は、豊かな自然環境に囲まれた中で、のびのびと子育てができる地域。町全体で保育園や小学校・中学校は一つのみで、中町集落からは車で25分程度かかります。小学校・中学校へはバス通学できるため、保護者の負担軽減につながります。充実した教育体制が整っており、先進的な取組をいくつも展開しています。

西会津町こゆりこども園

国の制度により、3歳以上は全国の幼稚園・保育園で無償化となっていますが、西会津町では生後6ヶ月以上~2歳児についても保護者の所得に関わらず全て無料。給食費・延長保育・土曜保育なども全て無料です(国の基準と比較すると、この約3年間で約300万円の負担軽減につながります)。



西会津小学校・中学校

国が進めるGIGAスクール構想にいち早く対応し、児童生徒1人1台のタブレット端末の配布、全教室への電子黒板の設置、学校内の高速通信ネットワークの整備など、ICT機器を授業支援のツールとして最大限活用しています。また、地域住民と連携した「地域学校協働活動事業」や企業と連携した「プログラミング教育」、大学と連携した「アントレプレナーシップ教育」など、産官学民の知のリソースを活用した教育も行っています。



子育て支援

出産祝い金

第1子……出産時に祝金30万円
第2子以降……出産時に祝金30万円+小学校入学時10万円+中学校入学時10万円=合計50万円

乳幼児家庭子育て応援金

2歳に達するまで保育所(こゆりこども園)を利用せず家庭で育児する場合、対象児童1人あたり月額1万円の応援金を支給します。

インフルエンザワクチン接種事業

妊婦及び0~18歳の子どものインフルエンザ予防接種費用を全額助成します。

子育て医療費サポート事業

18歳までの町民の方にかかる医療費の一部を助成します。詳細はお問合せください。問合せ先: 西会津町健康増進課
電話: 0241-45-4532

※ 2023年度の実績を掲載しています

■ 取り決め事項



強いルール

中町集落では、自治や冠婚葬祭の対応について、集落の方針として定めているルールがあります。このページに記載されている情報を参考にしつつ、分からないことがあれば集落の人に聞いてみましょう。

集落一般行政	区長代理	1. 集落には区長代理制度はないが、区長代理をおくことにする。 この場合現在の会計を区長代理とする。
	共同作業	2. 小規模共同作業（お宮掃除や軽度作業等）は全員で行うこと。
	各種行事	3. 町民運動会や歳の神等は、従来集落に不幸があった場合は、中町集落の参加の是非について総会にて全員の意見で参加または不参加を決定している。四十九日が終われば参加できる。
誕生祝い	4. 誕生祝いについては従来後継者の第1子の場合のみ誕生祝いを行っているが、今後も従来のとおりとする。	
銭別	5. 銭別はいかなる場合も廃止する。	
年祝い	6. 厄年の人は1月1日に行われる集落の集会の際に、1,000円（お神酒代）を持参する。	
火災水害の場合	7. 他集落で災害が発生した場合の見舞金（区費から捻出）は従来通りとする。 新町・塩・小山・真ヶ沢・宮野の各集落で災害が起きた場合は、炊き出しを行うこともある。	
不幸があった場合	8. 当事者はまず区長に連絡し、区長は種々打ち合わせをして組長を通じて知らせる。 9. 弔問（顔見舞い）は廃止する。 10. お念仏は組長が日時及び時間を組内に連絡する。組長への連絡は区長が行う。 11. お手伝いの範囲は、本家・分家及び親族のみとする。ただし当事者がお手伝いを必要とする場合は、当事者が依頼する。この場合の謝礼（品物等）は廃止する。 12. 野菜等は廃止。 13. お念仏時の賄いは廃止とし、お茶等の香典返しも廃止する。またお茶や菓子等の接待はこの限りでない。 14. 香典の額は一世帯あたり一律3,000円とし、宵念仏（お通夜）の際に持参する。ただし親及び兄弟等はその限りでない。見舞い返しは無しとする。 15. ご遺志（寄付金）は廃止する（学校・消防・老人クラブ等）。 16. 現在、自宅以外での告別式が行われているので、そのような場合は区長が集落民を代表して焼香する。この場合は西会津町内に限る。 17. 各種法要等（一七日・二七日・三七日）のお念仏は手伝いをされた親族や本家及び分家以外、交友のあった方は出席されて供養してもよし。お念仏の使いはしない。ただしこの場合、金銭等の供物は一切廃止する。また、三七日には酒及び肴等でのもてなしは一切廃止する。壇払い・一回忌・三回忌等の法要は親族や近親者のみで行う。 18. お宮掃除について、当事者は1年間を服喪中とし掃除等は参加しない。	

■ 暮らしの SOS



強いルール

万が一の事態や、災害が発生した際の避難先などをまとめています。町が作成した防災ハザードマップのリンクも添えていますので、あわせてご確認ください。

○災害発生時

過去の歴史を見ても、中町集落は災害が少ない地域です。万一、被害がある可能性をあげるとすれば、大雨による洪水や氾濫が考えられます。

・小規模な災害が発生した際の一時避難所

【中町集会所】中町集会所には電話はないので、連絡は区長宅になります。

避難は、区長の判断と呼びかけにより行います。



・大規模な災害が発生した際の避難所

【奥川みらい交流館】

町の防災無線のアナウンスにより、避難指示が発令されます。避難情報は、各家庭のケーブルテレビでも確認できます。

・防災ハザードマップ

各世帯に冊子が配布されるほか、町の公式サイトでデータマップが公開されています。

<https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/uploaded/attachment/2260.pdf>



☆万が一に備える

- 大雪の際は、停電になる可能性があります。電気が使えなくても暖をとれるように、各家庭に1台、石油ストーブがあると安心です。灯油は常にストックしておきましょう。
- 大雪で車が立ち往生した場合に備えて、車内にはスコップを常備しておきましょう。
- ボヤが起きたときは、すぐに近所の助けを呼んで消火器などで初期消火を行いましょう。

=連絡先 MEMO =

区長 ☎
奥川みらい交流館 ☎ 0241-49-2001

自治会について



中町集落の自治の仕組みや決まりごとなどをまとめています。

区割り

中町集落の中でも5つの「組」(野原組・下村組・中島組・中村組・中通り組)に分かれており、集落行事の準備や回覧版などもその組ごとに行われています。

組長(5名)

回覧板の配布や区費の集金などを行います。決め方は組内の順番制で任期は1年。

区長選挙

2年に一度、区長選挙が行われます。選挙権は1世帯につき1票。区長は定年以降で、本業に支障のない人が選出されます。会計などの役員は区長が指名します。

区費

1世帯あたり月額1,400円の区費の徴収があります。区費は組長がまとめ、区長に届けます。年払いでも、月払いでも大丈夫です。移住者や駐在者は、集落の暮らしに慣れていない分、少額免除されて月額700円(3年間に限る)と決まっています。

回覧板

定期的に、町や集落からの案内文書が回覧板としてまわってきます。回覧板は集落の「組」ごとに配布されますので、自宅に回覧板がきたら早めに次の世帯にまわしましょう。

ごみ出し

家庭ごみは、集落内にある回収所に、その日の朝8時までに出します。分別や回収日については町の取り決めに従ってください。ごみ専用袋は西会津町の商店街で購入できます。

燃やせるごみ	生ごみ、ゴム、革類、木くず、布類など。町指定の可燃ごみ専用袋(半透明:赤字)へ入れ、集落のごみ収集場所へ。
燃やせないごみ	金物類、ガラス・陶磁器類、プラスチック玩具などのプラスチック製品そのもの、小型電化製品など。町指定の不燃ごみ専用袋(透明:青字)へ入れ、集落のごみ収集場所へ。
プラスチック製容器包装	プラスチック製の容器や包装で、プラの識別マークが付いているものが対象となります。町指定のプラスチック製容器包装専用袋(透明:緑字)へ入れ、集落のごみ収集場所へ。
あきびん 飲料、調味料等のびん	色別に分けて、集落のごみ収集場所に置かれる専用コンテナへ。冬期間は、不燃ごみ用の袋に入れて出してください。
空き缶	飲料、菓子缶、缶詰などの空き缶類、カセットボンベ。集落のごみ収集場所に置かれる専用コンテナに出してください。冬期間は、不燃ごみ用の袋に入れて出してください。
ペットボトル	飲料、酒類、調味料等のボトルで、ペットの識別マークのついているものが対象となります。集落のごみ収集場所に置かれる専用コンテナに出してください。冬期間は、不燃ごみ用の袋に入れて出してください。
紙パック (牛乳などの紙パック)	集落のごみ収集場所へ、紐で十文字に縛って出してください。
段ボール	集落のごみ収集場所へ、紐で十文字に縛って出してください。
紙製容器包装	紙製容器包装…紙製の箱や袋、包装紙類で、紙の識別マークが付いています。集落のごみ収集場所へ、紐で縛って出してください。
乾電池、電子たばこの電池、ライター、蛍光灯等	乾電池、電子たばこや加熱式たばこの電池、ライター、蛍光灯等は拠点で回収しています。拠点ごとに置かれている回収箱へ入れてください。回収拠点…役場、保健センター入口、新郷連絡所、奥川支所
粗大ごみ	家具・たんす・自転車、机など大型のごみは、粗大ごみ収集の際に出してください。粗大ごみ収集は、年に数回日程を決めて実施します。実施する際は、広報等により周知します。

【西会津町】家庭ごみの分け方・出し方はこちら

<https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/uploaded/attachment/1232.pdf>



委員/団体について



集落を運営するために、いくつかの委員会や団体が設置されています。義務参加ではありませんが、もし興味があれば区長さんに相談の上、委員会や団体に参加することもできます。

五か村堰委員

中町・新町・小山・宮野・真ヶ沢の5集落の委員が集い、管理している水路の整備や人足などの日取りを決めています。

道路委員

山道や農道の整備、管理を行っています。

水土里事業委員

農業に関する事業の推進や手続きなどを行っています。

健康づくり協力員

町の健診の案内を各世帯に配布・回収しています。

体育協会代議員

体育祭を行う際の選手決めや、奥川地区で開催するレクリエーションの集落のまとめ役を担います。

消防団(中町班)

消防車が出勤する前の初期消火をする役割。加入したい場合は中町消防団の班長に連絡しましょう。女性でも入れます。

グリーン推進委員

ごみ収集所の見回り・管理を行います。
※その他、農協・共済・土地改良区・森林組合等の連絡員があります(該当者のみ)。

交通会班長/交通会母の会

交通会の会費を集めたり、交通安全週間時の街頭指導を行ったりしています。



■ 中町集落からのお願い



ゆるいルール

のどかな田園風景も、昔ながらの立派な民家も、この集落に伝わる風習も、すべて、中町集落の皆さんが、人と人のつながりの中で手をかけながら大切に守ってきたものです。この集落を訪れる人や、移住される方へ、集落からのお願いごとをこのページにまとめています。集落の皆さんの価値観や暮らしを尊重し、中町集落での滞在を楽しんでください。

○ 人に会ったら元気にあいさつ

集落の住民は、お互いが顔見知り。町外から訪れた人は、地元の人にとってひと目で分かります。集落で会う人には、元気にあいさつしましょう。また、集落に移住する人は、全世帯へのあいさつまわりをおすすめします。不安な時は区長さんに相談して、サポートしてもらいましょう。

○ 15分前行動

集落の人は、時間を守ります。早め、早めの行動を心がけ、時間を守りましょう。例えば18時から会議がスタートするとしたら、遅くとも10分前には参加者が出揃っている場合がほとんどです。

○ 家の管理をしっかりと

家の掃除や、春～秋は草刈り、冬場は除雪。家の管理をきちんとしないと、草が生い茂ったり雪だまりになったりして、景観も荒れてしまいます。集落の景観をつくるという意識を持って、家を大切に使いましょう。

○ 素を出す

中町集落は、人と人の距離が近く、まるで皆が家族のようです。そうした関わりの中で気を遣ってしまう人もいるかもしれませんが、気を遣いすぎると、かえって集落の人たちも距離をとるようになってしまいます。気を張らないで、なるべく自分の素を出すようにすれば、コミュニティに馴染みやすくなりますよ。

■ 区長さんの声

どんな関わり方でもいい。
中町集落を盛り上げる仲間になってください！

中町区長・岩橋義平さん

中町集落で生まれ育ち、町の集落支援員として活動しながら中町区長を務め、農家民宿「のぼら」を営む岩橋義平さん。町外から訪れた人の受け入れ役や、地元の人たちとのつなぎ役になってくれる集落のリーダーのような存在です。気さくで親しみやすく、集落のことについても、また困りごとがあった時にも、気軽に相談に応じてくれます。義平さんにとっての中町集落の魅力や、皆さんに伝えたいメッセージなどをお話いただきました。



人口は減っている。でも、集落に関わる人は増えている

私はこの10年、中町集落を含む奥川地区の高齢者の暮らしをサポートする集落支援員として活動し、中町の自治を統括する区長も務めてきました。この地域は、町内において最も高齢化が進んでおり、人口が減りゆく実情を抱えています。これだけ聞くと過疎化に焦点があたりがちですが、その一方で、この集落に関わってくれる人は年々増えつつあるのです。いわゆる、交流人口・関係人口と呼ばれるものですね。この『集落の教科書』内でも紹介していますが、県内外の大学生が訪れて、中町集落をフィールドにアートプロジェクトや地域活性につながる取組を多数展開していたり、他にも、プロのクリエイターや企業人が訪れて、中町集落で作品制作や協働プロジェクトを行っていたりしています。様々な人が集落に集い、これまでになかった新しい風が吹いているのです。私が区長として活動してきたこの10年間の中でも、特にこの数年でその勢いは増えています。

集落が守り継いできた土地や自然、文化がある

中町は、山奥の田舎町にある集落。奥川地区のシンボル・高陽山^{こうようさん}を背に、田んぼや畑が広がり、日本昔ばなしのようなのどかな風景がとても美しい地域です。住民の多くは60代以上の人生のベテランたち。ちょっとシャイなところもありますが、みんな気さくで町外から訪れた人を歓迎しています。だから「集落に馴染めるだろうか」「仲良くできるだろうか」と不安を抱える人は、安心してください。お茶飲みが好きな人が多いので、お茶飲みに誘われたらぜひ遊びに行ってもらいたいですし、集落内で住民に出会ったら元気に挨拶をしてもらえると、それだけで集落の人は喜んでくれます。人の行き交いが多く、風通しのいい集落ではありますが、昔から守り継いできた土地や自然、文化があり、ここにいる人と人のつながりも大切にしています。ぜひ中町集落を訪れた際には、私たちが大切にしてきた風習や価値観を尊重いただければ、とてもありがたいです。その内容については、この『集落の教科書』に書かれてあるので読んでみてくださいね。そして中町集落を盛り上げる仲間になっていただけたら、それ以上の喜びはありません。中町集落で皆さんを待っています！

=連絡先 MEMO =

ご協力いただいた皆さん

岩橋義平さん(中町集落の区長/取材時)

矢部たみさん(時計屋)

石井アツ子さん(大上)

結城キミ子さん(栄屋)

岩橋厚子さん(大下)

飯嶋竜太さん(西会津町商工観光課/取材時)

円谷隆典さん・かお里さん(中町集落移住者)

荻原謙介さん(中町集落移住者)

渡辺貴洋さん(地域おこし協力隊/取材時)

長谷川幸志さん(地域おこし協力隊/取材時)

井上朋さん(地域おこし協力隊/取材時)

おむすび屋「結」メンバー

やどりぎ案内 2023 メンバー

その他、中町集落の皆さん



良いことも そうでないことも ちゃんと伝えたい

中町集落の教科書

福島県耶麻郡西会津町 奥川地区中町集落

令和6年3月15日 第1版

発行者：福島県会津地方振興局 企画商工部 地域づくり・商工労政課

福島県会津若松市追手町7-5

電話：0242-29-5292